

広島平和の旅

わたしたちが広島で感じたこと

茅野市では、非核平和事業の一環として、市内の4中学校の2年生を対象に非核平和への想いを作文にしていたとき、最優秀賞に選ばれた8名を8月に広島へ派遣しています。

広島市で行われる「広島平和記念式典」への参列、平和記念資料館等の見学や被爆された方から直接お話を聞くなど、平和の大切さを学んでいます。
8名の中学生が広島平和の旅を通じて感じたことや平和への想いを紹介します。



平和の種から 花を咲かせるために

東部中学校 2年2組

田中 千景さん



8月6日。私たちは平和記念式典に参列しました。印象的だったのは、こども代表の方たちの「私たちは無力ではないのです」という言葉でした。平和につながることは身近なところにとくさんあり、たしかに中学生の私たちも無力ではないと、あらためて思いを強くしました。

式典の後、8・6証言の集いに参加しました。被爆された方は、ただ不幸なだけでその後の人生を送るのではなく、幸せを求めて強く生き抜いた方がいたことを知り、胸の苦しさからほんの少し解放され、人間の強さや、生きていくことの尊さを感じました。被爆者達の思いは、私には到底理解の及ばないものだと思います。だからこそ、私たちは戦争について学び続け、風化させることなく語り継ぐ努力をしなければなりません。

この三日間の旅は、私の心の中の平和の種に確かに水を与えてくれるものでした。それと同時に、平和を訴える前に、もっともつと戦争の歴史や事実を知り、必要があると思えました。これからは戦後について、無関心にならず、平和について、命の尊さについて考えていくと心を新たにしました。そして生かされている私にできることを精一杯やろうと思えました。

忘れられない言葉

東部中学校 2年2組

長田 いずもさん



今年の夏、私は広島に行き戦争や原爆がもたらした被害や亡くなった方、残された方の悲しみを知りました。平和記念式典や原爆ドーム、資料館の見学など様々な場所に行きましたが、一番心に残っているのは七十三年前胎内被爆をされた寺田さんのお話です。

七十三年前寺田さんはまだ四ヶ月で母トメ子さんのお腹の中にいました。広島に原爆が投下された時、爆風により近くの家々の窓が割れガラス片が飛んできてトメ子さんの目に刺さり失明してしまいました。その時の広島は苦しむ人や誰かを探す人の声、死んでいくまさに地獄のような世界でした。

「子供のためにどうしても生きてやります」と私はこの言葉を今も覚えています。トメ子さんはそう言いました。お腹の中にいる寺田さんのため、他の二人の子供のために私ができるのは死ぬことなんかじゃやないと後々寺田さんに話されていたそうです。

日本は戦後七十三、四年、平和な国だと言われていますが、今日もニュースで人が殺されたと言っています。人には話し合うという他の種族にはできない手段があり、争いではなく話し合いで解決できる社会、それこそ本当の平和と言えるのではないのでしょうか。

貴重な経験

長峰中学校 2年1組

三浦 優奈さん



私は、学校で原爆の学習をして、実際に原爆の被害を受けた広島へ行き、もっと深く知りたいたと強く思っていました。

平和記念式典へ行き、直接見て聞いたりすることができて良かったです。子供代表の子が読んだ平和へのちかひの言葉がすごく心に残りました。

平和記念式典のあとに8・6証言の集いで被爆者の話を聞きました。忘れず色んな人に伝えられたら良いなと思いました。そして、とうとう流しで私は、平和と宮島の鳥居を書き、平和になるように願ひ、広島にしかない貴重なものなどは、いつまでも残ると良いなと思ひながら書きました。そして、願ひを込めて、流すことができました。

長野では、体験することのできない原爆の跡を実物で見たり、被爆者の話を聞いたりできて良かったです。また、資料や教科書にはのっていない被爆者の話なども知ることができたと思いました。もう二度と核兵器のない世の中にしていきたいと思いました。

一つの原子爆弾でどんな大きな被害の大きなのか、そして、広島・長崎に投下された原子爆弾は、どんな感じだったのかについて、長野県の人やこのことについてあまり知らない人にも伝えていき、広めたいと思いました。

広島平和の旅で学んだこと

長峰中学校 2年3組

おおくぼ まひろ

大久保 茉洋さん



この広島平和の旅ではたくさん大切な事を感じたり、学んだりすることができました。二

日目に「8・6

非核平和の旅に参加してみよう

永明中学校 2年1部

こだいしかなえ

小平 奏重さん



広島で聞く「非核平和」や「平和」などの言葉は、一つ一つに重みがあり普段聞いている「戦争」などとは違う言葉

に聞こえてきました。

一番心に残っているのは、2

日目に参加した、平和記念式典

のことも代表の二人の発表です。

二人の声はとてもインパクトが

強く、世界の人たちに届いている

のではありません。世界の人たちの

心に届けている、届いている気が

しました。二人の考える平和

とは、今を生きる人たちが変わ

っていくこと、ただ未来がある

だけでなく、その未来に夢や希

望など、もてることにあること

で、私が今まで考えていた平和

とは全然違い、その違いから、

改めて平和への思いを実感しま

した。そして、今も私の心に残

り響き続けています。

広島から遠く離れた茅野市で

今、私たちが平和な生活ができ

ているのは、「平和な未来をつ

くろうと懸命に生きてきた広島

の人々」の存在があり、毎年、

平和への思いを世界に届けてく

れている人々の思いが世界の

人々へ届いているからだと思

いました。広島の人たちだけでな

く、全ての人が戦争について考

え、次の世代へと伝承していく

ことが必要だと、この旅を通し

て実感しました。そして、体験

してきたこと、体験できたこと

全てに感謝の気持ちでいっぱい

です。

広島平和の旅で得たもの

永明中学校 2年1部

ながたまな

長田 真奈さん



この広島平和の旅で得たものは、私の中ではとても大きなものとなりました。

八月六日、私

は生まれて初め

て広島を訪れ平和記念式典で黙

祷を捧げました。うだる暑さの中、日本全国、そして世界中か

らこの日この時の為に集まった

人々が静かに、そして深い祈り

を込めた黙祷の時間はこれまで

幼い頃からテレビの前でこれま

だものとは全く違いました。

平和記念公園にある原爆ド

ームを見た時は体が固くなり、震

えていました。日常の中ではC

Gを使いもつとグロテスクな画

像や物語を目にする事はあるけ

れど、それは画面をシャットア

ウトすれば消えてしまっています。

七十三年前に広島でおきた悲劇

は決して忘れてはいけなく、強く

心に刻み込まれた。忘れてしま

えばまた、同じ事をくり返して

しまうからです。

私の生まれ育った世界唯一の

被爆国日本。その過去の上に今

の日本があります。8・6証言

の集いを通して、実際に被爆し

た方のお話は、やっぱり、世間

ではあまり知られていないこと

私の知らないことなども聞け

かつ説得力があります。語りべ

の方は、あと十年後にはいなく

なると言われています。この貴

重な機会を無駄にしないように、

今回の旅で得たことを二度と同

じにおきないように次の世

代にも伝えていきたいです。

平和を造る

北部中学校 2年2部

おぎはらあやめ

荻原 綺女さん



私が今回広島へ行って感じたことは、まだこの世の中は「平和」ではないという事です。

8・6証言の

集いでは今も後遺症がある方が

お話をしてくださいます。今

まで知っているつもりでいた原

爆のこと。でもこの証言の集い

で知らないことが多かったで

す。広島から離れたら離れる

ほど原爆についての正しい知識

がない人が増えていくはずで

す。そこで私は、「伝えなきゃ」と危

機感を覚えました。そう思った

私は被爆者の方に「原爆を知らな

い人に一番伝えたいことは何で

すか？」と聞きました。その答え

は「日本だけでなく世界が平和に

なること、そして核兵器をなく

すること」でした。核兵器をなく

すことが平和への第一歩である

と被爆者の方は言っているのだ

です。世界中の人を動かすことは難

しいけれど周りの人を変えるこ

とはできると思います。だから

私はこの体験を周りの人に伝え

て七十三年前のことを風化させ

ないようにしたいです。一度犯

してしまったこの悲劇を二度と

繰り返さないために今を生きて

いくことや原爆を語りついでい

くことが私たちの使命なのでは

ないでしょうか。世界中に本当

の平和を訪れるのはいつなのか

は自分たちが造れるのを待つので

人になりたいと感じました。

原爆について学ぶ

北部中学校 2年3部

あさくら

朝倉 ちひろさん



私は8・6証言の集いに参加し、初めて原爆によって障害を負った人の気持ちを聞いた。聞

ちになった。

私がお話を聞いた方の名前は

川下ヒロエさんと言う。まだ母

親の胎内にいる時に被爆したた

めに頭が小さく生まれる「原爆

小頭症」の患者の一人だ。身体

や知能の障害を伴う症気で、体

が全く正常な前被爆のため、

前に何も障害を負わず「生まれ

害で人生がつらい。」と川下さん

は言っていた。

私は、原爆のことも、被爆者

のことも、その人がその時どん

な気持ちだったのかも、考える

ことはほとんどなかった。だけ

ど、今までの人生で原爆投下が

一番身近に感じたこの旅で、考

えが間違えていたことを知った。

被爆者の方のお話を聞いて、人

生を体験しているような気持ち

になるからこそ、原爆の記憶は

つなぐっていくのが大切なこと

だ。原爆を知る人が少なくなっ

ていく今、でも、式典では外国

の方の姿をたくさん目にした。こ

れだけ、世界中の多くの人が平

和を願っているのだ。

私の心にずっと残ると思うし、

絶対に忘れてはいけない。広島

から離れた長野の人々がもつと

恐ろしい出来事について、知り

考え、平和について理解を深め

てくれることを私は願っている。